

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 附属小学校・教諭
氏 名 渡辺 奈穂子
 研究期間 令和2年度

研究プロジェクトの名称	ICTの活用を通して21世紀型能力を育む音楽教育の創造
研究プロジェクトの概要	<p>本研究では、ICTの活用を通して主体的・創造的な活動を実現し、表現と鑑賞の連続から音楽の楽しさや感動を重ねることができる音楽教育を創造する。そして、音楽的な見方や考え方をひろげていく中で「21世紀を生き抜くための能力+α」を構成する基礎力、思考力、実践力、人間力、教育実践力、学び続ける力を発揮し、高めることを目的とした。</p> <p>この目的を達成するために、ICTを活用した音楽活動を実践し、これまでの音楽活動を捉え直すとともに、子どもの資質・能力の育成にどのような影響を与えるか検証した。ICTを活用した音楽活動とは、①教師だけでなく、子ども自身のICT運用②多面的な視点から音楽を見つめる表現・鑑賞活動の担保③子どもの感じ取ったことや表現したことを共有する場の3つの条件が揃った活動とした。</p>
研究 成 果 の 概 要	<p>ICTの活用を通して、子どもの自己決定の場を設定することで、子どもの主体性を高め、仲間の学びに触れる機会を増やすことで、多様な価値観に触れることをねらった。具体的な実践例を以下に紹介する。</p> <p>【5学年「私と音楽」】</p> <p>〈第一次〉 休校中における私の音楽活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界各国でのコロナ禍での音楽活動を知る ・休校中の音楽活動を見つめる <p>〈第二次〉 生活の中の音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの音や音楽を見つける ・音と音楽の違いを話し合う ・生活の中にある音楽の一つ「目覚ましアラーム」をつくる <p>【成果】</p> <p>「目覚ましアラーム」づくりでは、「和音」「アルペジオ」「速度」「音色」の視点から、自分が目覚める時に聴きたい音楽をつかった。「なかなか起きることができないから、速度を上げた」「私は長調の音楽が好きだから、アラームも長調になった」など、自分と結びつけながら目覚ましアラームをつかった。また、仲間のつくった様々な目覚ましアラームを聴き、同じ条件の中で生まれる多様な表現によさや面白さを見いだしていた。さらに、生活の中にある音楽に目を向け、音楽づくりをする中で、音楽と自分のつながりに対する自分の考えをつくっていた。</p>



	<p>【6 学年「サウンドロゴ8」】</p> <p>〈第1次〉 既存のサウンドロゴを聴く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なサウンドロゴを聴き比べる ・印象に残るサウンドロゴを分析する <p>〈第2次〉 サウンドロゴをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽制作ソフトウェア「Song Maker」 <p>https://musiclab.chromeexperiments.com/Song-Maker/や楽器で8拍のサウンドロゴをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属小学校のイメージから構想する ・言葉やリズム、音の高さを考える ・音色、速度、繰り返し等の視点で工夫する ・つくった8拍のサウンドロゴを演奏する <p>〈第3次〉 つくった作品を紹介する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サウンドロゴを収録し、紹介し合う ・生活の中の音楽について思考する <p>【成果】</p> <p>様々なサウンドロゴを鑑賞し、数秒の音楽でも言葉や旋律、音色などの音楽を形づくっている要素のはたらきから、印象に残る音楽になることを捉えた。また、同じ旋律でも、音色や速度が変わるだけで、印象は大きく異なることを感じながら、サウンドロゴをつくり、つくり変えていった。さらに、ハーモニーやリズム伴奏を追加したりなど、表現の可能性をひろげる子どももいた。「こんな表現をつくりたい」という思いや願いを実現するために、試行と思考を連続させる中で、生きてはたらく知識や技能をつくり、新たなものを生み出す楽しさや喜びを見いだした。</p> <p>【2つの実践を通して】</p> <p>子どもにとって身近でありながらも無自覚な音楽を対象とし、思いや願いをもち、音楽を形づくっている要素を手掛かりとしながら音楽をつくることを可能にした。演奏技能や記譜力に左右されることなく、納得できる音楽をつくることのできる環境が、感覚的そして音楽的に思考しながらつくり、音楽的な見方や考え方をひろげる姿につながったと考える。音楽をつくることに満足感や達成感を得た子どもは、音楽を楽しむ気持ちや思考するよさを実感するとともに、人や音楽と豊かにかかわりながら学び続けていこうとする自分をつくった。これは21世紀型能力につながる姿があったととらえている。</p>	  
<p>研究成果の発表状況</p>	<p>【公開授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月3日 第5学年「私と音楽—目覚ましアラーム—」 ・10月9日 第6学年「サウンドロゴ8」 <p>【Web発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第11期教育課程開発研究（2年次）「自分をつくり未来を拓く子どもが育つ学校」子どもの「問い」が立ちあがる教育活動の追求Web実践提案 ・上越教育大学附属小学校ホームページ実践紹介とサウンドロゴの作品紹介 <p>【書籍】</p> <p>2020年研究書籍『子どもの「問い」が立ちあがる』（仮）にて紹介予定(2021年3月出版予定)</p>	
<p>学校現場や授業への研究成果の還元について</p>	<p>本研究を県内外へ紹介することで、ICTを効果的に活用した学びの工夫の在り方の追究の一助となる。作成した音源や教材は、半永久的に保存することができ、再利用が可能である。教師が活用可能できるようにすることで、業務軽減や経費削減につなげる。また、教師のICT活用の抵抗感を払拭し、ICT機器を使用する活動の内容・質の改善および向上の実現に寄与できる。</p>	